赤十字おかやま

NO. 10

Okayama Chapter

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

終戦から75年、救護員としての赤十字看護師の“昔と今”

Japanese Red Cross Society

終戦から75年、救護員としての赤十字看護師の“昔と今”

赤十字の看護師は、いつの時代もいのちを救う活動を続けています。

赤十字の看護師は、「苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命に基づいて、看護を実践してきました。
令和2年、終戦から75年を迎えた今も、苦しんでいる人を救う活動を続けています。

Column 看護技術を学び救護にあたった婦人たち

日本赤十字社は救護看護婦の養成に先立って、有志の貴婦人を中心に構成される「篤志看護婦人会」を結成し、看護技術を身に付けた女性達が戦傷病者の救護にあたりました。

写真は、篤志看護婦人会岡山支会が養成した第1回の篤志看護婦の一人、「山口せん」さんとその修業証書です。

戦時中

過酷な状況下で私たち救護看護婦に遭遇した傷病兵の方たちは、安心感と信頼感から、看護の傍ら、故郷のことやご両親のことを話してくれたこともありました。

国内外で傷病兵の救護を行いました。

日中戦争が始まった昭和12年から終戦の昭和20年まで、派遣された救護班は960班にのぼり、延べ3万3156人（うち、岡山県からは21班、555人）の救護看護婦たちが陸海軍病院や病院船で救護活動にあたりました。

おにぎりを配る看護婦

野戦病院での勤務

病院船での治療の様子

日本の港を離れ現地に向かう看護婦

※本稿では、現在は使われていない当時の名称（救護看護婦）を使用しています。

現 在

血圧を測りながら、避難所での生活はどうか、食事と睡眠は十分とれているかなどのお話を伺いました。被災地で支援を待つ方々にとって、赤十字の救護服がどれだけ安心感を与えるものであるのかを実感しました。

災害時には、避難所等での診療やこころのケアを行います。

災害時の救護活動で看護師としての力を発揮できるように、日ごろから訓練や準備を行っています。

「東日本大震災」で被災者に寄り添う看護師

「平成26年広島県大雨災害」での健康チェック

「平成28年熊本地震災害」で被災者の声に耳を傾ける看護師

「平成30年7月豪雨災害」で出産間近の妊婦さんへの声かけ

TOPICS 1

いま、私たちができること

新型コロナウイルスによる感染症は、世界中で猛威を振るっています。
自分自身や大切な人をウイルスから守るために大切なことは、①人と身体的距離をとることにより接触を減らすこと、②マスクを着用すること、③手洗いをすることです。また、飛沫感染や接触感染、さらには近距離での会話への対策など、日常生活の中で私たちができることを実践していきましょう。

日本赤十字社岡山県支部の新型コロナウイルス感染拡大防止に関する取り組み

下記は取り組みの一部です。

「正しい手洗い動画」等の制作

新型コロナウイルス感染症予防として、手洗い・マスク着用の重要性が挙げられています。岡山県赤十字有功会、RSK山陽放送、岡山シーガルズのご協力を得て、動画を制作しました。

この動画は日本赤十字社岡山県支部YouTubeで配信中のほか、ホームページからダウンロード可能です。

対面用スクリーンの整備

新型コロナウイルスの感染拡大防止、来庁者や職員の方々の飛沫感染防止等を目的としてアクリル製の「対面用スクリーン」600セットを調達し県内の保健所や全市町村の赤十字担当窓口等へ整備しました。

TOPICS 2

『令和2年7月豪雨災害義援金』

令和2年7月3日からの大雨により被災された方々に、心よりお見舞いを申し上げます。

甚大な被害に見舞われた被災者の方々を支援するため、日本赤十字社では義援金を受け付けてます。

岡山県内においては中国銀行・トマト銀行の本支店、各市区町村の赤十字担当窓口、各赤十字施設において義援金をお受けしています。
皆さまの温かいご支援をお願いします。

人吉市内の避難所にて診療を行う赤十字職員

義援金についての詳細はホームページから　日本赤十字社岡山県支部　検索

日本赤十字社 岡山県支部
Japanese Red Cross Society

〒700-0823　岡山市北区丸の内二丁目7番20号
TEL 086-221-9595　http://www.okayama.jrc.or.jp

発行 令和2年8月